

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和3年度第3・四半期
(令和3年10~12月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和3年10～12月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和3年12月）	23
4. 特別調査「2022年（令和4年）の経営見通し」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調査の概要

1. 調査時期 令和3年10～12月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	-	72
卸 売 業	-	20
小 売 業	-	37
サ ー ビ ス 業	-	47
建 設 業	-	31
合 計	-	207

※新型コロナウイルス感染拡大にともない、調査にご協力いただけない事業所が多数生じていることから、「調査対象事業所数」は把握不能となっております。

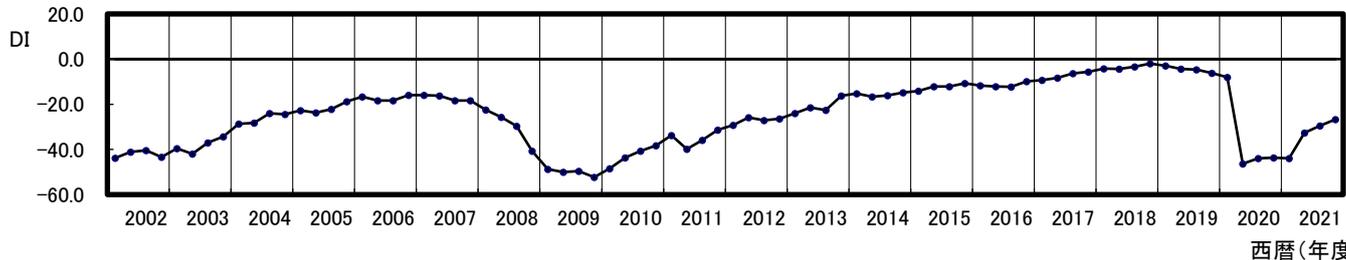
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和3年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

3期連続の改善で持ち直しの動きを維持

都内中小企業景況・6業種合計DI



西暦(年度)

業況判断DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は新型コロナウイルス感染者数が減少し落ち着きをみせる中、小売業や対面型サービスなど個人消費関連の活動が持ち直しつつあることから、全体で-26.7（前期は-29.5）と前期に比べ2.8ポイント改善し、3期連続で回復の動きとなった。

来期は、新たな変異株の動向が懸念材料とされるも、更なる社会経済活動の活発化を期待し、回復傾向が続くことを見込んでいる。

	前 期	今 期	増 減	来 期 予 想	今期との増減
製 造 業	-31.5	-28.6	2.9	-23.5	5.1
卸 売 業	-33.0	-29.6	3.4	-24.0	5.6
小 売 業	-41.7	-37.2	4.5	-32.8	4.4
サ ー ビ ス	-31.9	-28.6	3.3	-24.5	4.1
建 設 業	-11.0	-11.4	-0.4	-10.6	0.8
不 動 産 業	-9.4	-9.5	-0.1	-13.6	-4.1
総 合	-29.5	-26.7	2.8	-23.0	3.7

<製造業>

新型コロナウイルス感染状況が落ち着きをみせるなか、ゴム製品や電気機械を中心に需要が回復しており、業況は3期連続で改善した。売上額・受注残・収益の減少幅も縮小した。価格面では販売価格は下降が落ち着きをみせてきたものの、原材料価格は世界的な価格高騰に伴い更に上昇を強めた。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「原材料高」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」と続いている。

来期の業況は引き続き改善が期待できると予想している。売上額・受注残・収益においても減少幅が縮小するとみている。

<卸売業>

業況は鉱物・金属材料、化学製品において改善がみられるなど、水面下ながら4期連続で改善した。売上額、収益においても悪化幅を縮小した。価格面では仕入価格は原材料価格高騰の煽りを受け一段と上昇し、その影響から販売価格についても上昇した。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となった。

来期の業況は引き続き改善が続くと予想しており、売上額・収益の減少も縮小させるとみている。

<小売業>

新型コロナによる行動制限が緩和され、消費意欲が活性化されたことで飲食料品や飲食等の個人消費が上向き、回復が遅れていた業況は改善の動きとなった。売上額・収益においても大きく持ち直してきている。価格面では販売価格は低下が落ち着き、仕入価格は物価高騰や物流混乱に起因する供給不足による原材料不足の影響から引き続き上昇傾向を強めている。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「大型店との競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となった。

来期の業況は客足の戻りの期待とともに引き続き改善が期待できるとみているが、変異株の影響次第では再び沈んでしまう恐れも強まっている。売上額・収益は減少幅が縮小すると予想している。

<サービス業>

緊急事態宣言の解除による外出機会の増加が追い風となり、対面型サービス等の個人消費関連の活動が活発になったことから、業況は3期連続で改善した。売上額・収益についても悪化を弱めた。価格面では料金価格の下降が落ち着き、材料価格は上昇傾向をさらに強めた。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となった。

来期の業況は新規感染者数の減少で対面サービスの持ち直しと更なる需要の掘り起こしを期待し引き続き上向くとみている。売上額・収益においても改善を期待している。

<建設業>

業況は建築資材の値上げ等により前期並の厳しさを推移した。売上額・受注残・施工高ではわずかな改善がみられたものの、収益は業況同様に足踏み状態となった。価格面ではウッドショックによる材料不足等の影響から材料価格は一段と上昇を強め、請負価格は上昇に転じた。

経営上の問題点の上位2位は「材料価格の上昇」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は「経費を節減する」と「販路を広げる」が同率1位となり、「人材を確保する」が続いている。

売上額・受注残・施工高・収益はわずかに改善がみられるものの、来期の業況は今期並の足踏み状態が続くと予想している。

<不動産業>

ゆるやかな改善が続いていた業況は前期並の水準で推移したが、売上額・収益は減少度合を強めた。価格面では仕入価格は建築資材や人件費等の高騰を受け更に上昇し、販売価格についても上昇した。

経営上の問題点の上位2位は「商品物件の不足」、「同業者間の競争の激化」の順となり、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は再び厳しさを増すと予想している。売上額・収益は今期並の減少・減益で推移するとみている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。